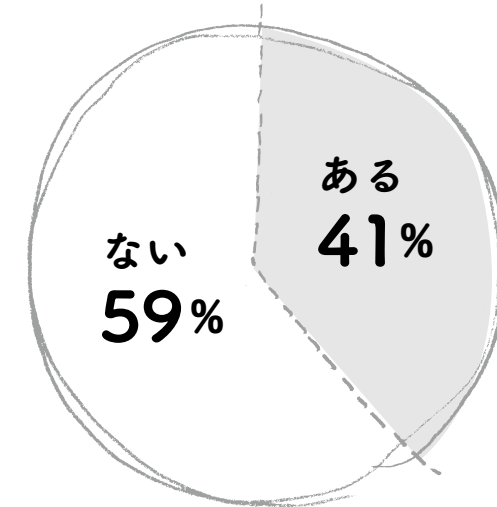


社会人 200 人にきく

覚えてますか？ 文学の授業

現在、社会で活躍する人々は、文学にどのような思いを抱いているのでしょうか。広く一般の社会人 200 人を対象に、中学校時代の文学の授業の記憶、今の自分と文学との関わりについてききました。

Q1 中学校の国語の文学の授業で、記憶に残っていることはある？



〈「ある」と答えた人の記述から〉

- ・「文学に正解などない、感じ方や考え方は自由だ」と教えてくれた恩師は今でも覚えていて感謝している。
- ・生きていくうえで役立つことを学んだと思った。
- ・知っている話でも詳しく読むことで、自分の考えが変わって、はっとした。
- ・小説本のキャッチコピーを考える授業が楽しかった。
- ・受験に合わせたテクニックのみを教わった。
- ・情緒的すぎて辟易した。
- ・深く読んでみたい作品には出会えなかった。
- ・自分にとって知識や見識を与えることが全くなく、何の役にも立たなかった。

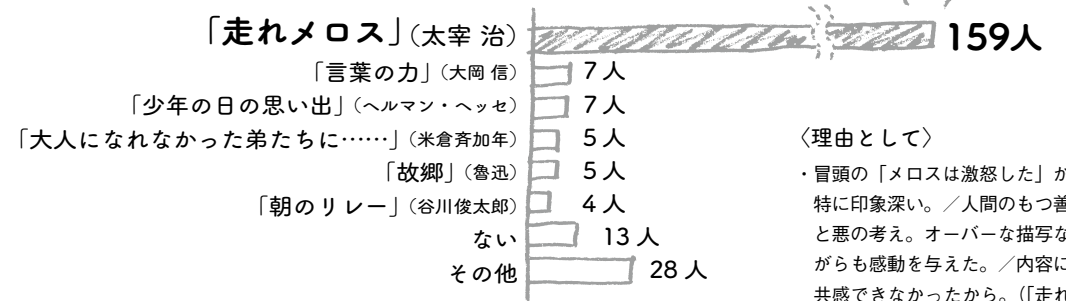
「授業の記憶がない」と答えた人は半数以上。

「記憶がある」と答えた人の中には、「好きではなかった」「つまらなかった」といった記憶をもつ人も。よい記憶を挙げた人は、先生や授業のしかたが特に印象に残っているようだ。

〈調査について〉
 ●対象：全国に住む 30～50 代の男女 200 人
 ●方法：ウェブアンケート
 ●時期：2018 年 7 月

Q2 印象に残っている文学作品（物語・小説・随筆・詩）は？

※複数回答あり。



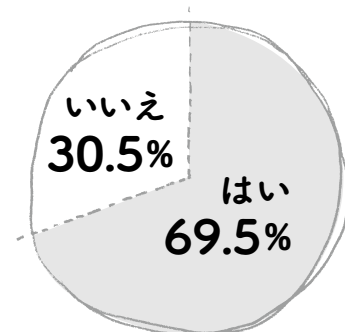
〈理由として〉

- ・冒頭の「メロスは激怒した」が特に印象深い。／人間のもつ善と悪の考え。オーバーな描写ながらも感動を与えた。／内容に共感できなかったから。(「走れメロス」)
- ・それまで言葉について意識していなかったから。(「言葉の力」)
- ・切ない思いを抱いた。(「少年の日の思い出」)
- ・風景が目浮かぶよう。(「朝の リレー」)

「走れメロス」が 1 位。
 「その他」には、教科書に掲載されていない作品も。

「走れメロス」が、同じように教科書に長く掲載されてきた「少年の日の思い出」「故郷」に比べて圧倒的に多数だったのは、やはり作品のインパクトによるところが大きいといえる。「その他」は、「オッセルと象」(宮沢賢治)、「羅生門」(芥川龍之介)など。

Q3 社会人として生きるうえで、文学は役に立つ？



〈「はい」と答えた人の記述から〉

- ・ものの考え方に少なからず影響があると思う。
- ・社会人としての一般教養。
- ・自分が一生経験できないことを疑似体験できる。
- ・現実にかかる問題の解決方法が文学にはある。
- ・他人を理解するためには文学を読まないと。
- ・読解力はいろいろな思考に必要。

〈「いいえ」と答えた人の記述から〉

- ・役に立つかどうかよりも、楽しみでよいのでは。
- ・お金にならない。
- ・本を読まないが、現在、支障はないから。
- ・現実世界での体験のほうがはるかに役立った。

約 7 割の人が「役に立つ」と回答。
 人間理解、ものの見方・考え方への影響を挙げる人も。

「人への共感力が高まる」「会話の際の話題の一つになる」など人間理解・関係づくりに役立つという声、「視野が広がる」などものの見方・考え方に役立つという声、「人生のヒントがある」など生き方を考えるうえで役立つという声が目立った。